語彙習得におけるコロケーションの重要性

近藤崇将*・松谷　緑

English Collocation: Lexical Acceptability in Coherent Text

KONDO Takamasa, MATSUTANI Midori

(Received September 27, 2013)

1．はじめに：日本人が英語を使えない一つの理由

外国語を学ぶ際、語彙習得において学習者は単語を１つずつ覚えてゆかざるをえないのは事実であるが、現実の言語使用において単語１語のみを用いるということは極めて稀である。実際の言語使用では単語は他の単語と組み合わせて用いられ、文の一部として機能するのである。単語の綴りや発音と訳語を知っているだけでは、コミュニケーションにおいて、産出する際にどのように使えばよいのかがわからない。また、同じような意味を持つ単語をどのように使い分ければいいのかわからない。そういった状況は英語を学ぶ日本人学習者にもよく見られることで、それが、日本人が英語を話せない／書けない原因の一つともなっている。近年英語教育においてもコロケーションの必要性が認識されるようになり、英和辞典にもコロケーションが記述され、コロケーションのみを扱った辞書も出版されるようになった。単語を文レベルで使いこなせるようにするには、コロケーションの知識が必要だと考える。そこで本稿では、類義語と呼ばれる単語のコロケーションについてコーパスを用いて考察し、類義語の使い分け方を明らかにし、さらに、言語の文化的価値の観点からもコロケーションの重要性を論ずる。

2．コロケーションとはなにか

本稿では、コロケーションを堀（2009）にならって「語と語の間における、語彙、意味、文法等に関する慣習的な共起関係」と定義する。また、堀（2009）では、コロケーションには語彙的コロケーション、意味的コロケーション、文法的コロケーションの３つの側面があるとしている。以下にそれらの例文を引用し、３つのコロケーションの違いを概観する。

2．1　コロケーションの種類（堀　2009:1-4）

ペアとなっている以下の例文のうち、それぞれ、より自然な文はｂである。

(1)　a．He has been *making research* in stylistics for many years.
　　b．He has been *doing research* in stylistics for many years.
(2)　a．It *provided* them *with a bad environment*.
　　b．It *provided* them *with a good environment*.
(3)　a．It would be *infinitely good* if these feeling could be translated into action by the

＊山口大学大学院教育学研究科教科教育専攻英語教育専修

people themselves.

b. It would be *infinitely better* if these feeling could be translated into action by the people themselves.

(4) a. We visited schools *there and here.*

b. We visited schools *here and there.*

(1a) の文はおそらく言いたいことは伝わるであろうが、ネイティブスピーカーは research を目的語にとる動詞として do を選択する。なぜ make ではだめなのであろうか。make の基本的な意味を考えれば "make research" も可能だろう。このように、ある名詞に対してどの動詞を用いるかという問題は、説明できる場合とそうでない場合がある。これは、単語同士の一種の相性の問題である。同じことが、「形容詞＋名詞」や「副詞＋形容詞」などについても見られる。以上のような語と語の相性の問題を語彙的コロケーションと言う。

(2)で用いられている動詞、provide は与える人にとって好ましいもの、役に立つものを与える場合に使われるので、意識的に冗談のつもりで使うのでない限り、bad といった好ましくないものと一緒に使うことはできない。他の例を挙げると、動詞 cause は "He causes a lot of damage." のように好ましくないものと一緒に用いられる。このような語とある特定の意味領域との相性の問題を意味的コロケーションと言う。

強意副詞 infinitely は、(3b) のように、than の有無に関わらず比較級を修飾するのが一般的である。このように、語とある特定の文法関係の相性の良さを文法的コロケーションと言う。文法的コロケーションとして、step into, calm down, look into のような句動詞があげられる。これは、前置詞や副詞といった特定の文法機能と習慣的に共起する関係を持つ動詞のコロケーションのことである。また形容詞にも特定の前置詞との共起関係をもつものがある。例えば、aware of, afraid of, interested in などは形容詞と特定の文法機能との文法的コロケーションと言える。さらに文法的コロケーションは他の側面を持つ。「あちこち」を表わす英語表現は、(4b) にみられるように here and there である。日本語の語順では、話し手から遠くのものを先に述べるが、英語では話し手から近いものを先に述べる。他に例を挙げると、「私はあれこれ悩んだ」は "I worried about *this and that.*" である。このような語と語の順番はしばしば言語によって異なる。

2．2　コロケーションから見えてくるもの：文化と時代

堀 (2009:10-13) では、コロケーションと関わりのある問題について、興味深い観点を挙げている。一つはコロケーションと文化の問題である。例えば、bread and (　　) という英語の括弧内に入る単語を、BNC と日本人の中高生 1 万人の英作文のコーパスである JEFLL の結果を比較すると、BNC では、butter (204), cheese (81), wine (43), jam (31), water (27), milk (25), flour (14), circuses (12), potatoes (12), fruit (10), margarine (9), meat (9) などである一方、JEFLL では、milk (470), tea (67), coffee (36), butter (18), egg (14), a cup of (13), juice (6), soup (6) などであるという (列挙した各語句の後の括弧内は出現数)。BNC と JEFLL において総数はほぼ同じであるが、割合で言えば、BNC で最も多い bread and butter は23％なのに対し、JEFLL では２％に過ぎない。また、JEFLL で最も多い bread and milk は52％だが、BNC では３％に過ぎない。これは英国と日本の食生活の違いがコロケーションに表れていると解釈できるとしている。

もう一つはコロケーションと時代による変化の問題である。具体例として Stubbs(2001:151-154)の指摘を取り上げている：

> Stubbs によると、名詞 care は1900年以前は、take care of someone のように圧倒的に個人的な意味での使用が多かったのが、1900年以降は child care committee や care of the aged のような組織や社会制度を意味する使い方が見られるようになった。特にこの傾向は、1950年頃から強くなり、child care, hospital care, dental care が頻繁に用いられるようになった。1980年代では heal care が高頻度であるという。(堀　2009:13)

本稿では、特に意味的コロケーションと文法的コロケーションについて、上記のような文化的側面や通時的な観点を踏まえて、２種類のコーパスを利用しながら、英語におけるコロケーションの一端を考察し、言語使用におけるコロケーションの重要性を明らかにする。

３．類義語の使い分け：形容詞と名詞のコロケーション

日本語で「強い」と訳される英語の単語といえば、日本人がまず思い浮かべるのは strong であろうが、他にも、intense や powerful といった形容詞がある。いずれもそれほど難しい単語という部類には入らないが、これらをどのように用いるかについては、あまり意識されることはないのではないだろうか。そこで、BNC と Wordbanks を用いてそれぞれのコロケーションを比較し、これら類義語を使い分けるための情報を探ってみたい。

３．１　intense, powerful, strong の使い分け

検索に際し、２単語間の語数は３語以内とし、基本形による検索を行う。まずそれぞれの語についてコロケーションを調査し、共通する共起語の頻度の高いものを表にした。BNC の結果は以下の通りである。(形容詞の後の括弧内の数字はコーパス内の出現総数を示す。)

表１　形容詞「強い」と名詞（BNC）

	man	group	concern	interest	sense	belief	will	wind	smell	tea	personality
intense(2285)	7	2	9	47	3	2	1	0	0	0	0
powerful(7065)	109	76	1	47	17	3	1	5	2	0	16
strong(19325)	160	36	8	104	232	44	16	325	58	46	41

よく観察すると、これらのコロケーションが示唆する語の使い分けの情報が浮かび上がってくる。以下に、それぞれわかりやすいと思われる例とともに記述する。

intense は他の２語に比べ用例が少ないが、その割に concern や interest といった語と共起しやすく「程度の強さ」を表わす用例が多いと言える。

(5) In the middle-class residential areas where most MPs live, law and order may not be a serious worry, but it is of intense concern in poorer district. (AHN)

(6) There has been intense interest in the British life insurance sector by Australian, New Zealand and Continental interests for some time. (A1E)

powerful は多くの語と共起関係を持つが、その中でも man や group と共起する用例が多く見られ、「権威や影響力の強さ」を表わす。

(7) Thibaut was considered the second most powerful man in France after the king. (C8M)
(8) They saw factory works as a source of pride rather than low status, and in this way they inverted the ideas of the teachers and other more powerful groups in society. (CMB)

strong は全体的に用いられる頻度が高く、他の２語に比べ使用される幅の広い語と言える。表１の全ての検索対象の語と共起関係を持つが、その中でも wind, sense, man と共起する用例が多く見られ、「程度や物の力（圧力）の強さ」を表わす。

(9) Strong winds gusting up from the South. (A08)
(10) Strong sense of an object, he wrote, not an image. (A08)
(11) As I struggled with my heavy bag at Navan, a strong old man ran to help me. (ADM)

ところで、表１には１つの名詞に対し複数の形容詞が高い頻度を示す項目が見られる。intense / powerful / strong と interest のコロケーションと、powerful / strong と man のコロケーションである。以下のセクションではこれらの違いについて考察する。

３．２　intense interest / powerful interest / strong interest

コロケーションの用例の詳細な分析の前に、*Oxford Advanced Learner's Dictionary*［第８版］（以下 OALD と記す）でそれぞれの定義を確認しておく。

intense　1　very great; very strong ◇ The president is under intense pressure to resign. ◇ the intense blue of her eyes ◇ intense interest/pleasure/desire/anger
　　2　serious and often involving a lot of action in a short period of time: intense competition ◇ It was a period of intense activity.
　　3　(of a person) having or showing very strong feelings, opinions or thoughts about sb/sth: an intense look ◇ He's very intense about everything.

powerful　1　(of people) being able to control and influence people and events ◇ a rich and powerful man ◇ Only the intervention of powerful friends obtained her release.
　　2　having great power or force; very effective: powerful weapons ◇ a powerful engine ◇ a powerful voice
　　3　having a strong effect on your mind or body: a powerful image/drug/speech
　　4　(of a person or an animal) physically strong: a powerful body ◇ a

powerful athlete

strong 1 (of people, animal, etc) having a lot of physical power so that you can lift heavy weight, do hard physical work, etc: strong muscles ◇ She wasn't a strong swimmer (= she could not swim well). ◇ He's strong enough to lift a car!

2 (of a natural or physical force) having great power: Stay indoors in the middle of the day, when the sun is strongest. ◇ a strong wind/current ◇ a strong magnet

3 having a powerful effect on the body or mind: a strong drug

4 having a lot of power or influence: a strong leader/government

5 the strong [pl.] people who are rich or powerful

BNC では、intense interest のコロケーションを含む文の中には special, extremely exciting, particular, a high penetrating voice など関心の高さや程度の著しさを示す語（句）が用いられていた。

(12) There has always been a special − an intense − interest in crofting. (ALA)

(13) As there are fewer than fifty major breeds (ignoring all the colour variants), the discovery of entirely new types was extremely exciting, and the intense interest aroused by them is easy to understand. (BMG)

一方、powerful interest の用例を調べてみると、powerful interest のコロケーションを含む文の中には monstrously や monopolies, administrative convenience, market forces, navy, the military などの程度の著しさや権力・影響力を示す語（句）が用いられていた。

(14) That of course puts a heavy burden on all of us, constrained as we are by having to work in underfunded, hard-pressed organisations pitted against monstrously powerful vested interests, and struggling often against ignorance and indifference at the same time. (B04)

(15) the Masai for development purposes, administrative convenience was always a powerful interest: (C90)

(16) Many members of the oligarchy, particular the military, have powerful financial interests in gambling and prostitution, but on the other hand, prostitutes are always in danger of finding themselves outside the margin of the law. (EVS)

strong interest の用例については、意味を限定するような特徴は見られなかった。しかし intense や powerful に比べて、後ろに in で始まる前置詞句を従える例の割合が圧倒的に高かった。intense interest in は18例、powerful interest in は 4 例にすぎなかったが、strong interest in のコロケーションは66例あった。さらに、in の後ろに続く語（句）を調べると普通名詞が続く用例が多く見られた。つまり、strong interest のコロケーションは intense interest や powerful interest に比べ抽象度の高い表現だと言える。

(17) He has always been careful to balance his busy executive life with a strong interest in extramural activities. (A6L)
(18) The 1960s were marked by a strong interest in the relationship between primary and secondary education. (ARC)

3．3　powerful man / strong man

表1で見たように、powerful と strong との共起語として、man はいずれも高い頻度を示した。それぞれの文脈にどのような特徴が見られるかさらに詳しく観察する。まず powerful man であるが109の用例のうち powerful man in のコロケーションが39例見られ、in の後ろには国や地域名、government や industry, society などの単語が続く用例が多く見られた。このことは powerful man のコロケーションがある特定のコミュニティにおいて権力や影響力を持つ人物について述べる文脈で用いられていることを示していると言える。またそれ以外の用例の多くは、powerful man のコロケーションを含む文の中に rich, money, wealthy, successful, influential などの単語が存在し、powerful がどういった意味で用いられているか示唆する単語を含む用例が多く見られた。つまり powerful man のコロケーションは上記の OALD の定義の1の意味で用いられている文脈が多いことがわかる。言い換えれば、このタイプのコロケーションの使用頻度の高さが辞書の記述に反映していると言える。以下にそういった用例の一部を示す。

(19) Until his death in 1768 the Duke was the most powerful man in England, the monarch apart. (CB6)
(20) This is what made them anxious about the attitudes of powerful men in their society - rulers, great magnates - towards the churches of which they considered themselves the lords. (ADC)
(21) but now McQuaid was the richer and more powerful man and (A6N)
(22) he was a man of thirty-two now, a successful man, a powerful man (C8S)
(23) Luke's an influential and powerful man - the film industry always has been a glamorous lure (HGT)

次に strong man はどのような意味で用いられているのだろうか。strong man の用例を調べてみると、OALD の定義の1や4の意味で用いられている用例が多く、割合的には1の意味で用いられている用例が4の意味で用いられている用例よりも少し多かった。それらの意味を特定する情報として、1の意味で用いられている用例は同じ文の中に big や tall, muscle など身体的特徴を示す単語や could lift などの何か力を必要とする行為を示す語句が用いられていた。また4の意味で用いられている用例は、strong man が含まれる文の中に rule, dominate や military aristocracy, the Royal Navy など権力や影響力を示す語句や、権力や影響力を及ぼす範囲を特定する語句が用いられていた。以下にそれらの例文を記す。

(24) He looked a big strong man. (FAB)
(25) Three strong men could lift a SE 5 a, fully loaded; (HRA)

(26) I need a strong man to help me rule the country. (FRD)

(27) The so-called Aragonese party (led by the strong man of the military aristocracy, Aranda, who came to power in 1766) may, perhaps, be seen as a belated attempt to recover power, at a moment of crisis for the king, from the hands of professional civil servants. (FB7)

3．4　strong tea と intense tea

表２は BNC に加えて、Wordbanks による調査結果を示したものである。

表２　形容詞「強い」と名詞（BNC）(Wordbanks)*

		man	group	concern	interest	sense	belief	will	wind	smell	tea	personality
intense												
B	(2285)	7	2	9	47	3	2	1	0	0	0	0
W	(1521)	4	2	3	19	1	1	0	0	0	1	2
powerful												
B	(7065)	109	76	1	47	17	3	1	5	2	0	16
W	(3774)	52	25	0	8	8	2	4	5	2	0	7
strong												
B	(19325)	160	36	8	104	232	44	16	325	58	46	41
W	(11004)	93	17	2	64	103	29	8	131	25	9	31

BNC と Wordbanks の検索結果について、全体の割合はほぼ同じであったが、BNC と Wordbanks で使用頻度に違いがあるものも見られた。例えば，BNC において、strong の全検索数は19325で strong tea のコロケーションは46例あるが、一方、Wordbanks では strong の全検索数は11004で strong tea のコロケーションは９例と少ない。Wordbanks における strong tea のコロケーションの用例を調べてみると、全ての用例がイギリス英語のテキストで用いられていた。このことは、strong tea のコロケーションがイギリス英語に特徴的なコロケーションであることを示し、tea が英国の生活において重要な部分を示していると言えるであろう。BNC と Wordbanks において strong tea のコロケーションの割合にかなりの差があるのは、両コーパスのテキストタイプの特徴を考えると、理にかなっており、これは言語と文化が密接に関係していることを示すよい例と言える。

一方で、BNC には見られない intense tea のコロケーションが、Wordbanks に見られる。この用例を調べてみると、アメリカ英語のテキストで用いられていた。この用例は、インドのお茶を紹介する文脈で用いられており、インドのお茶は様々な香辛料が入っていたり、薬用に用いられているため、他国のお茶に比べとても濃いものになるという意味で用いられていた。この strong tea と intense tea のコロケーションの用例の違いから strong に比べ intense の方が「程度の著しさ」を表わす度合いが強いと言える。これは OALD の intense の１の定義に very strong と記述されていることと整合性を持つ。

＊以下、表中、BNC のデータは B、Wordbanks のデータは W の欄に示す。

(28) For maximum points fish and chips should be eaten with nothing but salt and vinegar and washed down with a mug of strong tea. (ukmags0118)
(29) The flavor from cinnamon, ginger, cardamom, pepper, cloves, and nutmeg create an intense and exceptional tea. (usephem0250)

３．５　まとめ：コロケーションからわかる類義語の使い分け

以上の考察から、次の２点が明らかになった。

1）１つの名詞に対して複数の形容詞が高い頻度を示す場合でも、それぞれの用例を詳細に分析することでそれぞれのコロケーションに特徴的な意味がある。
2）コロケーションの意味を限定するような語（句）がコロケーションを含む文の中に存在する。

また、２つのコーパスにおける strong tea のコロケーションの割合を比較することで、実際の言語使用にはその言語が使われる文化が反映されることがわかった。すなわち、コーパス研究を通して、その言語が用いられる文化についても学ぶことができる。コロケーションを意識することは、類義語の使い分け方を知るだけでなく、文化と関わる言語現象に気づくきっかけとなる場合もある。

４．語の意味変化：副詞と形容詞のコロケーション

このセクションでは本来評価的意味において好ましくない意味で用いられていた副詞が、現在ではどのくらいの頻度で中立的な強意詞として用いられているか考察する。また、*The Oxford English Dictionary*（以下 OED と記す）を用いて中立的な強意詞で用いられ始めた年代も考察する。

ここで調査する単語は、terribly, awfully, badly, outrageously, extremely の５つである。extremely は他の４語のように明らかに評価的意味において好ましくない意味を持っていたものとは一線を画するものだが、強意副詞の代表的なものであり、比較の対象としても有益であるので、ここで扱うものとする。それぞれの副詞が、sorry, difficult, bad, wrong といった好ましくない意味を持つ形容詞、また、good, nice, important, useful といった好ましい意味を持つ形容詞とどのような共起関係をもつか調査した。２単語間の語数は２語以内とし、基本形による検索は行わないものとした。

表３　副詞「とても・ひどい」と形容詞（BNC）（Wordbanks）

		sorry	difficult	bad	wrong	good	nice	important	useful
terribly	B (1166)	68	27	8	21	19	10	55	4
	W (1004)	31	23	5	32	20	7	36	5
awfully	B (378)	29	7	3	3	26	11	1	0
	W (249)	16	1	5	3	20	17	3	0
badly	B (4183)	0	0	0	58	0	0	0	0
	W (2554)	0	0	0	29	0	0	0	0
outrageously	B (81)	0	1	1	1	1	0	0	0
	W (75)	0	0	0	0	0	0	0	0
extremely	B (6685)	18	493	22	0	139	14	280	140
	W (3347)	7	201	13	0	96	11	94	44

表３から、本来評価的意味において好ましくない意味で用いられていた副詞が好ましい意味の形容詞を修飾し、中立的な強意の意味で用いられる場合もかなりあることがわかる。特に terribly good, awfully good のコロケーションの頻度は高く、顕著に表れている。badly や outrageously はこの表においては肯定的な意味の語とのコロケーションは outrageously good の１例を除いて見られない。しかし、表３には挙げていないが、共起検索結果からは、BNC では、中立的な意味において badly は early や new と、outrageously は large, high, amusing, cheerful, colourful などといった語と、また、Wordbanks においては、badly は right と、outrageously は beautiful, high, aware などといった語とコロケーションを持つ例が見られた。

２つのコーパスの考察から本来好ましくない意味で用いられていた語が中立的な強意詞として用いられるようになる割合が低くないことがわかった。どの時代から中立的な強意詞として用いられるようになったかという問題に対し、ここでは OED を用いて中立的な強意詞として用いられ始めた時代とその初例を考察する。

terribly は OED に以下のような記述が見られた。

> *OED* s.v. *terribly adv.* 2. a. Very severely, painfully, or badly; passing colloquially into a general intensive: Exceedingly, extremely, excessively, very greatly.
>
> 1604 E. G[RIMSTONE] D'Acosta's *Hist. Indies* iii. xx. 184 It raines and snowes terribly. 1707 *Curios. in Husb. & Gard.* 274 Tulips are charming to the Sight, but terribly offensive to the Smell. 1774 GOLDSM. *Nat. Hist.* (1776) VI. 101 Relying on its courage, and the strength of its bill, with which it [the puffin] bites most terribly. 1833 DICKENS *Let.*? Oct. (1965) I. 31, I am terribly out of spirits this morning. 1867 TROLLOPE *Chron. Barset* II. lviii. 147 You must be terribly in want of your dinner. 1871 JOWETT *Plato* I. 49 Why then are they so terribly anxious to prevent you from being happy? *Mod.* I am at present terribly busy.

これらの記述から terribly が中立的な強意副詞として用いられ始めたのは19世紀後半頃であることがわかる。awfully は OED に以下のような記述が見られた。

> *OED* s.v. *awfully adv.* 2. So as to command reverence, or impress the imagination; sublimely, majestically.
>
> a1300 *E.E. Psalter* cxxxix. 14 Mikled ertou aghfulli. 1727 THOMSON *Summer* 187 Who, Light himself!..dwells awfully retired From mortal eye. 1858 HAWTHORNE *Fr. & It. Jrnls.* I. 198 However awfully holy the subject.
>
> 3. *slang*, as simple intensive: Very, exceedingly, extremely.
>
> [1830 GEN. P. THOMPSON *Exerc.* (1842) I. 238 He will have made an awfully bad choice if he comes to be sentenced to be hanged.] 1859 LANG *Wand. India* 154 In the way of money-making..he is awfully clever. 1878 BLACK GREEN *Past.* ii. 15 You'll be awfully glad to get rid of me. *Mod.* It was awfully jolly!

これらの記述から awfully が中立的な強意詞として用いられ始めたのは、19世紀中頃からとわかる。さらに始めは俗語として用いられていたことも上記の３から読み取れる。

badly は OED に以下のような記述が見られた。

> *OED* s.v. *badly adv.* 6. *colloq.* with 'need, want' = Much, greatly.
> *Mod.* I wanted to see you very badly.

上記から badly は口語において、need, want とのコロケーションによって中立的な強意詞として用いられることがわかる。badly が中立的な強意詞としていつ使われ始めたかという点についての記述はなかった。いつ頃から中立的な強意詞として用いられ始めたかは定かではないが、OED における badly の５の定義の初例は1799年であり、これよりはるか前に遡ることはないだろう。このことから badly が中立的な強意詞として用いられ始めたのは早くとも18世紀後半以降だと考えられる。

outrageously は OED には中立的な強意詞として用いられる定義は見られなかった。outrageously の他の定義の用例で最新のものは1854年に使われたものであった。派生語の outrageous を調べてみると、ここにも中立的な意味で用いられている定義はなく、他の定義の用例の最新のものは1881年に使われたものであった。つまり outrageously が中立的な強意詞として用いられ始めたのは、少なくとも20世紀以降だと考えられる。

extremely は OED によれば、始め "to the uttermost degree" の意味で用いられていたが、次第にその意味が弱まり、"in an extreme degree" の意味で動詞と共に用いられていたことがわかる。さらに動詞とのコロケーションも次第に減少し、形容詞や分詞、副詞とコロケーションを持つようになったようである。また OED の用例からは extremely は18世紀初頭ごろから中立的な強意詞として用いられ始めたことが読み取れる。

以上 OED の考察から、それぞれの語がどの時代から中立的な強意詞として用いられ始めたかわかった。中でも extremely は中立的な強意詞として用いられ始めた年代が早く、現在のような用いられ方をするまでに数々の変遷を辿ってきたこともわかった。また、badly や outrageously は OED の記述から中立的な強意詞として用いられ始めたのは比較的最近であることがわかった。これらのことから、現在の言語使用において、早い年代から中立的な強意詞として用いられ始めた副詞はコロケーションも多く見られ、その頻度も高く、比較的最近になって中立的な強意詞として用いられ始めた副詞はコロケーションもあまり見られず、その頻度も低いことがわかる。このことは２つのコーパスの結果からも読み取れた。

５．まとめ：コロケーションの重要性

英語には基本語といわれるような日常的に使用頻度の高い語彙でも類義語があり、日本人学習者にあっては、とりあえず単語を覚えていても、それらをどのように使い分ければよいのかわからず、使える語彙として機能していないといった状況が多く見られる。単語をバラバラに覚えるのではなく、コロケーションを意識して学習していけば、使える語彙として機能する active vocabulary になる。本稿では、コーパスを用いることによって、英語のコロケーションの一端を示した。セクション３で詳しく見たように、１つの名詞に対して複数の形容詞が高い頻度で観察される場合についても、文脈を詳細に分析することで、それぞれの語が用いられやすい環境があることが明らかになった。また、コーパス間のコロケーションの頻度を比較す

ることで、コロケーションにはその言語が用いられる文化が反映していることもわかった。

セクション４で観察したように、語は意味を少しずつ変化させながら日々使われ続けている。その意味が変化するにはOEDの記述からもわかるように長い年月がかかる。また時として、本来意味していたものとは全く正反対の意味として用いられるようになる場合があることもわかった。

今回の調査で利用した２つのコーパスには、同様の傾向を示すところも多くあったが、一方で、頻度に差が見られる点もあった。その理由として考えられるのは、まず、２つのコーパスのテクストタイプの違いである。つまり、データにおける話し言葉と書き言葉の割合が異なっていること、また、Wordbanksにはアメリカやオーストラリアのテクストも含まれており、地域による言語使用の違いが考えられる。第二に、言語使用の年代の差である。BNCは1985年から1990年まで、Wordbanksは1990年から1998年までのテクストが集約されている。この数年間に言語使用に微妙な変化が起こったことが考えられる。この２つの年代は一見すると近いように見えるが、実はそうとも言えない。この時期、パソコンや携帯電話などのコミュニケーションツールが急速に普及し、インターネットにより世界中の人と容易に情報伝達ができるようになったため、言語使用上の急速な変化が生じているということは可能性として大いに考えられる。

現代は、インターネットなどの情報端末の急速な普及により、世界中の人と簡単に情報のやり取りができるようになった。この傾向はますます加速してゆくであろう。その結果として、語の意味が今まで以上に急速に変化していくことが予想される。OEDで見られたように何十年もの年月をかけ意味変化が起きるのではなく、たった数年で語の意味変化が起こる時代がやってくるかもしれない。そういった時代の外国語学習においては、コーパスの活用は有効であろう。

単語は文の一部として機能する。それゆえ、語彙を習得するということは単語が文の中でどのような語と組み合わせて使えるかを理解するということを含む。つまり、どのようなコロケーションを持つか知ることが語彙習得において大切なことである。

付記

本稿は平成25年度山口大学教育学部学部長裁量経費の配分を受けた教育研究プロジェクト「学校で英語を教えることについて語ろう」によるシンポジウム「「英語の知識を活かした実践的な指導のあり方：英語の語彙について」（平成25年８月８日、於山口大学）で近藤が口頭発表した論考に加筆したものである。

参考文献

秋元実治（1994）『コロケーションとイディオム—その形成と発達—』英潮社

バイバー、ダグラス他（著）斉藤俊雄他（訳）（2003）『コーパス言語学—言語構造と用法の研究』南雲堂

Biber, Douglas, Susan Conrad, Randi Reppen (1998) *Corpus Linguistics: Investigating Language Structure and Use,* Cambridge University Press, Cambridge.

Biber, Douglas, Stig Johansson, Geoffrey Leech, Susan Conrad and Edward Finegan (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English,* Longman, London.

橋内　武（1999）『ディスコース　談話の織りなす世界』くろしお出版

林　洋和（2002）『英語の語彙指導—理論と実践の統合をめざして—』溪水社
堀　正広（2009）『英語コロケーション研究入門』研究社
堀　正広（2011）『例題で学ぶ　英語コロケーション』研究社
McCarthy, Michael and Felicity O'Dell (2001) *English Vocabulary in Use,* Cambridge University Press, Cambridge.
Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech, and J. Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language,* Longman, London.
Renouf, Antoinette and John McH. Sinclair (1991) "Collocational Frameworks in English," in Karin Aijimer and Bengt Altenberg, eds., *English Corpus Linguistics: Studies in Honour of Jan Svartvik,* 128-143, Longman, London and New York.
Stockwell, Robert and Donka Minkova (2001) *English Words: History and Structure,* Cambridge University Press, Cambridge.
Stubbs, Michael（2001）*Words and Phrases Corpus Studies of Lexical Semantics,* Blackwell, Oxford and Massachusetts.
テイラー、ジョン・R（著）瀬戸賢一（訳）（2008）『認知文法のエッセンス』大修館書店

辞典

『ジーニアス英和辞典』第３版大修館書店
Oxford Collocations Dictionary for Students of English, 2nd ed., (2009) Oxford University Press, Oxford and New York.
Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English, 8th ed., (2010) Oxford University Press, Oxford and New York.
『新編　英和活用大辞典』（1995）研究社
Simpson, J. A. and E. S. C. Weiner, eds. (1989) *The Oxford English Dictionary,* 2nd ed., Clarendon Press, Oxford.

コーパス

The British National Corpus　http://bnc.jkn21.com/
WordbanksOnline　http://wordbanks.jkn21.com/